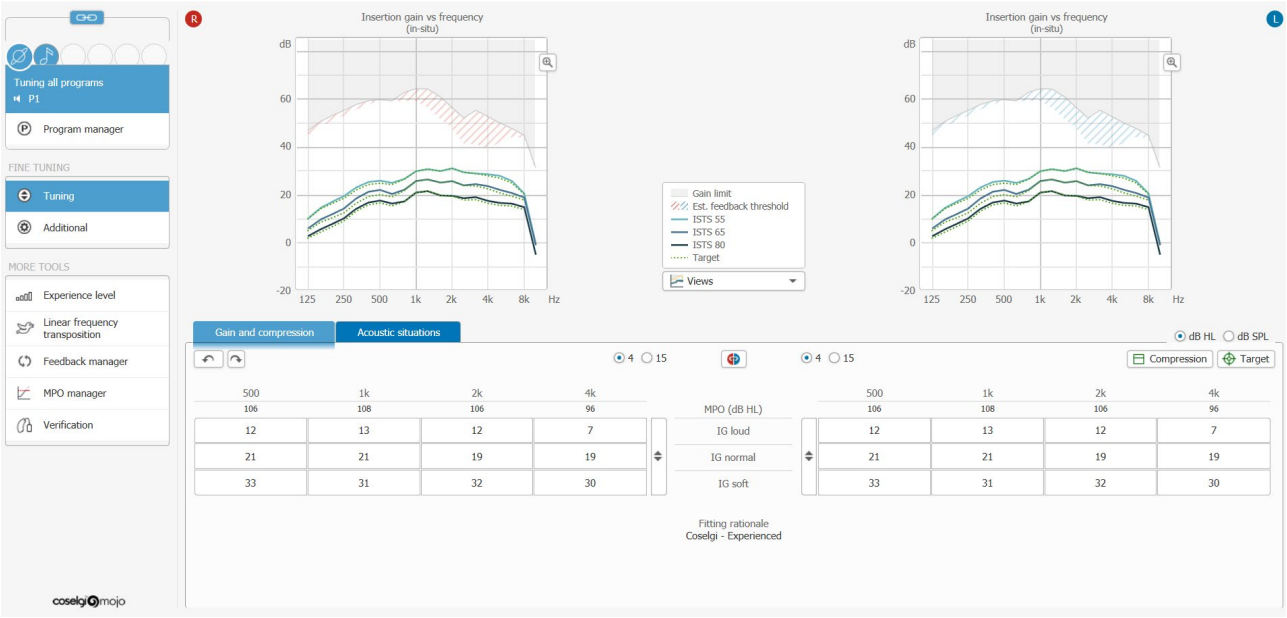
クイックガイド

C-tune II

微調整

はじめに

このクイックガイドでは、C-tune II の「微調整」画面について説明します。この画面では、プログラムスターター、およびシステムに基本的な変更を加える主な微調整ツールにアクセスできます。「その他のツール」には、さらに役立つツールセットがあります。



プログラムスターター

画面左にあるナビゲーションバーの上部にあり、表示可能なプログラム数は 5 つまでで、スマートトグルプログラムも 1 つあります。補聴器に複数のプログラムがある場合は、すべてのプログラム名が表示されるわけではなく、有効なプログラムだけが表示されます。他のプログラムはプログラムアイコンで表示され、アイコンにマウスカーソルを合わせると、プログラム名が表示されます。

「微調整」画面に表示される機能は、補聴器シリーズで異なることにご注意ください。以下で、Dinamico シリーズと Unia/Effect/Mojo シリーズの微調整ツールについて説明します。

Unia/Effect/Mojo シリーズの主なツール

- □**ログラムマネージャー：**設定できるプログラムの数は、モデルおよび補聴器とともに DEX を使用するかどうかで異なります。工場出荷時の補聴器には、ほぼユニバーサルプログラムが設定されています。ただし、一部の補聴器タイプ（Bluetooth 接続搭載の補聴器など）には、自動的に定義されたプログラムが複数設定されています。プログラムマネージャーを使えば、他のプログラムを定義できます。

  「*追加プログラム*」では、例えばミュージックのように特定の環境に特化したプログラムを追加できます。「*特別なプログラム*」では、電話、テレコイル、リラクゼーション用の Zen Mojo ゼン／リラックス用）プログラムを追加できます。

  スマートトグルプログラムも追加できます。3 つの異なるゼンあるいはリラックススタイルから選択してお客様に設定できるようにする場合は、「ゼン+」（Mojo ゼン+／リラックス+用）を選択します。お客様が電話プログラムに簡単にアクセスする場合は、「電話+」を選択します。

- **調整：**「*利得と圧縮率*」タブでは、補聴器の挿入利得レベルや圧縮率を調整できます。「調整」ウィンドウで最初に表示されるグラフは「挿入利得と周波数」ですが、他の表示も選択できます。2 種類のグラフ表示オプションを使用して表示を変更します。

  補聴器や選択されたプログラムによっては、「*利得と圧縮率*」以外のタブが表示され、様々な設定が可能です。例えば、ユニバーサルプログラムでは「音状況」設定、Zen+ プログラムでは Zen+（MOMENT ゼン+／リラックス+用）スタイルの選択およびオプションを使用できます。

- 追加：スピーチとノイズモード、風切り音のコントロール、フィードバックキャンセルモードなど、各機能の設定を行います。各機能ごとの現在の設定が表示され、アイコンをクリックすると設定を変更するダイアログボックスが開き、機能の説明を参照することができます。

Dinamico シリーズの主なツール

- **プログラム設定：**最初に表示されるグラフは「出力と周波数」ですが、他のグラフ表示も選択できます。2 種類のグラフ表示オプションを使用して表示を変更します。

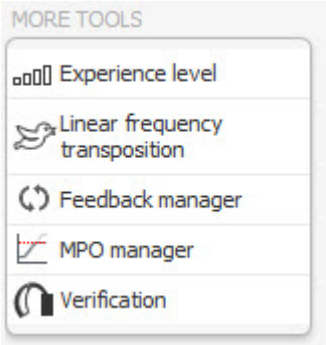
  補聴器の設定は、グラフの下にあるタブを使用して調整します。「*利得設定*」タブでは、各周波数域や入力音レベルの増幅を調整でき、「*圧縮率*」タブでは、CT1（圧縮しきい値）を調整して、CT2、CR1、CR2（圧縮率）を表示できます。「追加」タブでは、補聴器の特別な一部機能の設定を定義できます。

- **プログラムマネージャー：**設定できるプログラムの数は、モデルおよび補聴器とともに DEX を使用するかどうかで異なります。工場出荷時の補聴器には、マスタープログラムのみが設定されています。プログラムマネージャーを使えば、他のプログラムを定義できます。

  両耳フィッティングの両方の補聴器に同じプログラムを追加するには、「通常プログラム」を使用します。2 つの補聴器に別々のプログラムが必要な場合は、「複合プログラム」を選択してプログラムの組み合わせ一覧から選択します。

その他のツール

「その他のツール」には、次のような役立つツールがあります。



- 体験レベル。ユーザーが補聴器に慣れていない場合、一時的に体験レベルを 4 未満に設定できます。これで全般的に利得が下がります。慣れてきたら、レベル 4 に戻します。自動体験レベルも使用でき、レベルが自動的に変化します。体験レベルは、補聴器に定義されたすべてのプログラムに有効です。グラフ表示では、ターゲット曲線を含めて、挿入利得と周波数（Dinamico の場合は出力と周波数）を比較したグラフを示します。

- **線形周波数変換。**Dinamico シリーズの線形周波数変換を開くと、マスタープログラムに自動的に移動します。Unia/Effect/Mojo シリーズでは、以前に選択したプログラムが有効な状態になります。グラフ表示には、線形周波数変換の効果が示されます。「線形周波数変換」ウィンドウは、「選択したプログラム」タブで開きます。ここで、機能を有効にするプログラムを選択できます。補聴器のすべてのプログラムや個別のプログラムに対して、機能をオンにできます。設定を定義するには、機能の開始周波数と、線形周波数変換が必要な周波数範囲を選択します。一部の補聴器では、線形周波数変換の大きさを定義して、線形周波数変換の体験レベルをオンにすることもできます。

- **フィードバックマネージャー。** フィードバックテストの結果が良好にもかかわらず、特に静かな環境ではフィードバックが残っており、ユーザーがハウリングを訴える場合があります。新しいイヤーモールドの作成やベントの削減でも問題を解決できない場合に、フィードバックマネージャーで調整すれば問題を解決できる場合があります。

- **MPO マネージャー。**このウィンドウでは、参照情報として MPO 目標値と、 Dinamico シリーズでは MPO 参照値が表示されます。最大出力レベルを定義できます。この機能に対する調整は、補聴器のすべてのプログラムに影響することにご注意ください。

- **検証測定。**この機能には、外部の補聴器分析システムでの検証測定用に補聴器を設定できるツールが含まれています。「標準アダプティブテストモード」と「非アダプティブテストモード」から選択できます。

この文書は、電子データで供給されています。印刷版をご希望の場合は、http://widex.pro/gps-startup-guide で無償で入手できます。配送には 7 営業日ほどかかります。また、文書は http://widex.pro/gps-startup-guide からもダウンロードできます。

Copyright © Coselgi.無断複写・転載を禁じます。

文書バージョン：6.0。発行日：2023 □ 08 □